

トルコギキョウ新品種 ‘プチスノー’ の育成とその特性

佐藤裕則・五十鈴川寛司・高橋玲子¹⁾・佐藤 純²⁾・菅原 敬³⁾・佐藤武義²⁾・西村幸一⁴⁾

(山形県農業総合研究センター園芸試験場・¹⁾ 山形県村山総合支庁農業技術普及課・²⁾ 山形県農林水産部・³⁾ 山形県庄内総合支庁産地研究室・⁴⁾ 元山形県農業総合研究センター園芸試験場)

Breeding of Lisianthus New Cultivar ‘Petitsnow’ and its Characteristics

Hironori SATO, Kanji ISUZUGAWA, Reiko TAKAHASHI¹⁾, Jun SATO²⁾, Kei SUGAWARA³⁾, Takeyoshi SATO²⁾ and Koichi NISHIMURA⁴⁾
(Horticultural Experiment Station of Yamagata Integrated Agricultural Research Center・¹⁾ Yamagata Murayama Agricultural Technique Popularization Division・²⁾ Agriculture Forestry and Fisheries Department of Yamagata Prefectural Government Office・³⁾ Yamagata Shonai Agricultural Technique Improvement Research Office・⁴⁾ Former Horticultural Experiment Station of Yamagata Integrated Agricultural Research Center)

1 はじめに

トルコギキョウは近年品種改良が進み、多種多様な品種が育成されてきた。しかし、小輪系の品種は未だ少ない。そこで、県オリジナル品種の育成を目的に、野生種 *Eustoma exaltatum* の小輪の形質を栽培種へ導入し、小輪系白色の F₁ 品種 ‘プチスノー’ を育成した。本稿ではその特性について報告する。

2 試験方法

(1) 育成素材および育成方法

野生種 *E. exaltatum* と栽培種 *E. grandiflorum* の交雑種子の分譲を受け、F₁ 品種の親系統の育成のため、自殖による固定化を進めた。個体選抜の過程では、下位分枝が少ない、葉先枯れが発生しにくい、葯が柱頭よりも下に位置し花持ちが良い、夜間に花卉が閉じない等の性質を有する個体を選抜した。その結果、得られた固定系統 (3 系統) を用いて、総当たりの組み合わせ能力検定を行ない、有望な組み合わせを選抜した。

(2) 特性検定試験

‘プチスノー’ および対照品種として ‘アニーピンク’ ‘つくしの雪’ を、うね幅 130cm、株間 10cm、条間 10cm、中 2 条抜き 4 条植えて、5 月 26 日に定植した。施肥量は 1a あたり成分量で窒素 1.5kg、りん酸 3.1kg、カリ 2.5kg とした。特性は、切り花長、主茎長等の形質について各品種 20 本を調査した。日持ち性については、収穫後、CHRYSL K-20 1000 倍液を一晩、吸水処理し、翌日、CHRYSL TBag (1 袋/L) で、15℃ 条件下で処理した。その翌日、水生けし、25℃、150lx (12 時間日長) でインキュベートした。水は毎日交換し、3 日に 1 回切り戻しを行った。各品種 10 本を調査し、日持ち性は葉と花の萎れを観察し、3 分の 1 が萎れた日を調査した。

3 試験結果及び考察

(1) 育成経過

1997 年度、砂丘地農業試験場 (現 庄内産地研究室) にて、野生種 *E. exaltatum* と栽培種の交雑種子を大川清氏 (元静岡大学) より分譲を受け、育種を開始した。同試験場にて、1997 年度から 2002 年度にかけて、親系統の固定を進めた。2003 年度には育成地を農業生産技術試験場 (現 園芸試験場) に移し、さらに親系統の固定を行った。2004 年度から 2006 年度、固定した親系統 (3 系統) を用いて、総当たりの組み合わせ能力検定を行い、有望と考えられた 1 組み合わせを選抜した。2007 年度、品種登録のための特性調査および県内 3 カ所において地域適応性検定を行った。その結果、有望な特性が確認できたことから、2009 年度、品種登録出願を行い、2012 年 4 月 4 日、‘プチスノー’ の名称で品種登録された。

(2) 特性概要

‘プチスノー’ の花は白色で、一重の小輪系 (花径 3.5~4cm) のスプレータイプであった (図 1、表 1)。柱頭が雄ずいの上に位置しているため、花持ちが良く、さらに夜に花卉を閉じない特性を有していた。5 月下旬に定植した場合、8 月下旬 (定植約 90 日後) に収穫期となる晩生タイプであった。切花長は 90cm 程度であり、80cm 以上の階級が 96% を占めた (表 1)。また、対照の ‘アニーピンク’ ‘つくしの雪’ に比べて、葉先枯れが発生しにくい特性を有していた (データ未掲載)。日持ち性試験の結果から、葉および花とも対照とした ‘アニーピンク’ よりも 2 日、‘つくしの雪’ よりも 4 日、日持ち期間が長かった (表 2)。

4 まとめ

トルコギキョウ F₁ 品種 ‘プチスノー’ は白色で、一重の小輪系のスプレータイプの品種であった。柱頭が雄ずいの上に位置しているため花持ちが良く、夜に花卉が閉じない特性を

有していた。5月下旬に定植した場合、8月下旬（定植約90日後）に収穫期となる晩生タイプであり、切花長は90cm程度であった。また、葉先枯れが発生しにくい特性を有していた。

2012年4月4日、‘プチスノー’の名称で品種登録された。

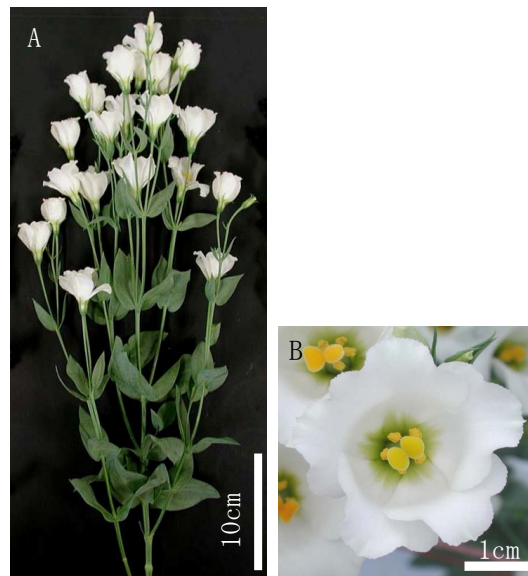


図1 ‘プチスノー’の草姿 (A) および花器 (B)

表1 ‘プチスノー’および対照品種の切り花品質（2007年度 場内試験）

品種名	調査日 (月日)	切花長 ^z (cm)	主茎長 (cm)	切花重 (g)	展開葉数 (枚)	一次側枝数 (本)	茎径 (mm)	調整重 (g)
プチスノー	8/23	87.7	51.2	105.8	13.7	5.3	5.9	76.9
アニーピンク	8/10	80.1	34.4	99.4	10.0	4.4	6.2	66.5
つくしの雪	8/20	83.5	47.0	145.3	12.0	5.2	7.9	114.6

^z 収穫直後に株元から花蕾（無効花蕾も含む）の先端までを計測した

表1 続き

品種名	花数(個)		花色	花径 ^x (cm)	階級別割合(%)		
	開花数	有効花蕾数 ^y			80cm～	70cm～	60cm～
プチスノー	14.0	11.7	黄白	3.4	96	4	0
アニーピンク	7.6	5.7	淡ピンク	3.8	26	72	2
つくしの雪	7.7	14.0	白	4.6	80	20	0

^y 長さ1.5cm以上のもの ^x 柱頭が開いた当日～翌日に計測した

表2 ‘プチスノー’および対照品種における葉および花の日持ち性（2007年度）

品種名	日持ち日数(日)	
	葉	花
プチスノー	17	17
アニーピンク	15	15
つくしの雪	13	13

収穫日: プチスノー (8月28日)、つくしの雪 (8月28日)、アニーピンク (8月13日)